

# 名東図書館 縮小・民営化に関する アンケート結果

2018年9月11日

## 1. 調査の目的

名古屋市内の図書館が「アクティブ・ライブラリー構想」（2017年12月策定）によって大きく変えられようとしている。この構想は、30年先を見据えた「今後10年間の取り組みを示した」と位置付けられ、「『縮充』の精神」で施設の再編成を行う、としている。

具体的には、現在21館ある市内の図書館（中央館1、区分館14、支所館6）を、鶴舞中央館は引き続き「中央館」とするが、残り20館は5つのブロックに分ける。そして、ブロック内の施設を3段階（アクティブライブラリー、コミュニティライブラリー、スマートライブラリー）に再編する。さらに、そのランク毎に、運営形態や蔵書冊数も変更するという内容となっている。この再編により、運営形態はコミュニティライブラリーとスマートライブラリーとなる15館が民間委託（指定管理者制度、現在は5館で試行）となる。また、蔵書数についてもランク毎に再編され、蔵書総数も「削減」される。

しかし、この「構想」への認知度は低い。

「構想」によると、名東図書館は第1ブロックに位置づけられ、「構想」で直営を維持するアクティブライブラリー図書館は、「千種区内に置き、モデル館として整備」と記述されている。そのため、名東図書館の場合は運営が民間委託されること、蔵書の減少が想定される。

こうした状況を踏まえ、①区民の「構想に対する」認知度、②運営形態の変更と蔵書の減少についての賛否、③図書館機能への期待、などをアンケートで尋ねることとした。

## 2. 調査の対象

名東区区民のうち2万世帯の住民

## 3. 調査の方法と期間

返信用封筒付きのアンケート用紙を全戸配布により配布し、回収した。

調査期間は、2018年5月1日（火）～6月30日（土）

## 4. 調査票

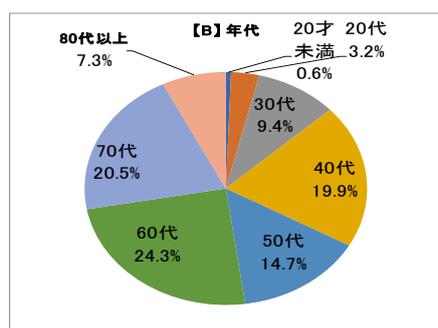
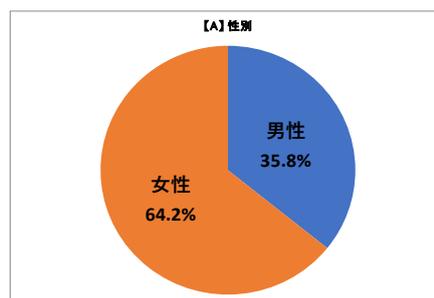
（別紙）

## 5. 回収数・回収率

回収数は352人、回収率は1.8%

## 6. 回答者の属性

### （1）男女比



男女比では女性が多く、不明者を除くとおよそ3分の2（64.2%）になった。名古屋市が2016年8月に実施した市民アンケート（対象1,000人）は、男女を同数としている。

### （2）年代

回答者の年齢では、40代以上が86.7%（不明を除く）と大多数であった。なかでも、60歳代、70歳だけで4割を超える（44.8%）

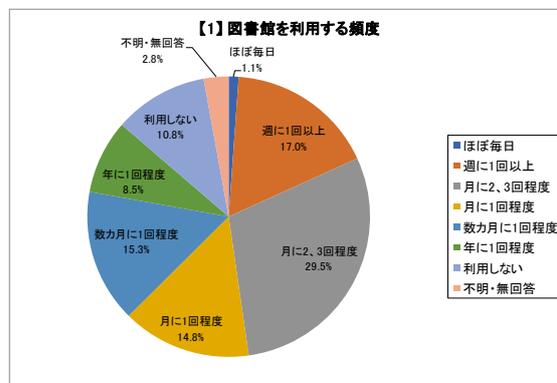
### (3) 住んでいる学区

名東区内がほとんど。学区別に回答をしてもらったが、「名東」の回答が多く、回答者が「学区名」と「区の名称」を勘違いした可能性が高い。そのため、図表は掲載しない。

## 7. 結果の概要

### (1) 図書館を利用する頻度

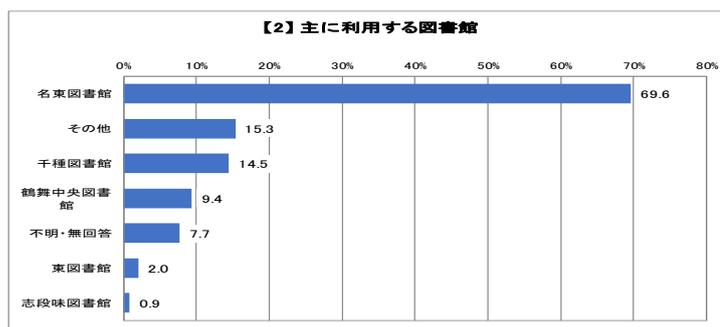
利用頻度を7段階に分けて尋ねた。回答者の割合で最も多かったのは「月に2、3回程度」で全体の約3割(29.5%)だった。次いで、「週に1回以上」(17.0%)が多かった。「月に1回程度」を合わせて、毎月利用している利用者は回答者の6割以上(61.3%)に及ぶ。(図①)



「アクティブ・ライブラリー構想」で紹介されている市民アンケートによると、月1回以上の利用者は2割程度(22.8%)であり、名古屋市民が1年間で1点以上の資料を借りた割合は11.7%としていることから、今回の回答者が、一般市民と比べて、図書館の利用割合が多く、図書館への感心が高い人であることがうかがえる。

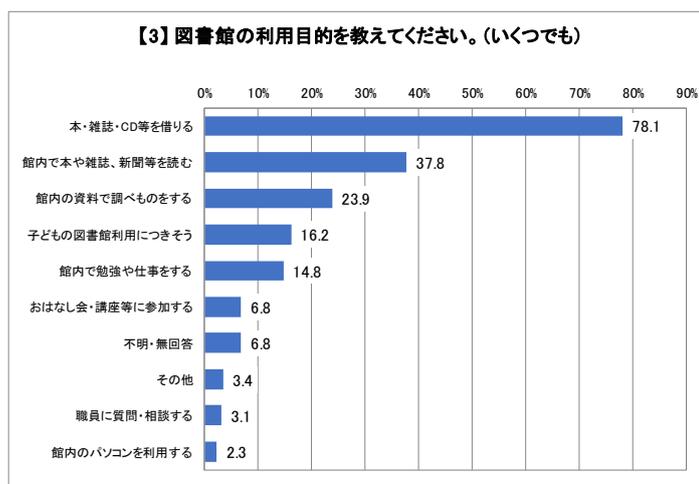
### (2) 主に利用する図書館

名東図書館が圧倒的に多く約7割(69.6%)になる。他の図書館では、千種図書館が多かった(14.5%)。鶴舞中央図書館を主に利用している人も9.4%いた。



### (3) 図書館の利用目的

8項目(「その他」を除く)に分けて、尋ねた(複数回答可)。圧倒的に多かったのは、「本・雑誌・CD等を借りる」で8割近くに及んだ(78.1%)。次いで、「館内で本や雑誌、新聞等を読む」(37.8%)、「館内の資料で調べものをする」(23.9%)が2割を超えた。(図③)



この割合は、名古屋市民アンケートの結果とほぼ同様の傾向であった。

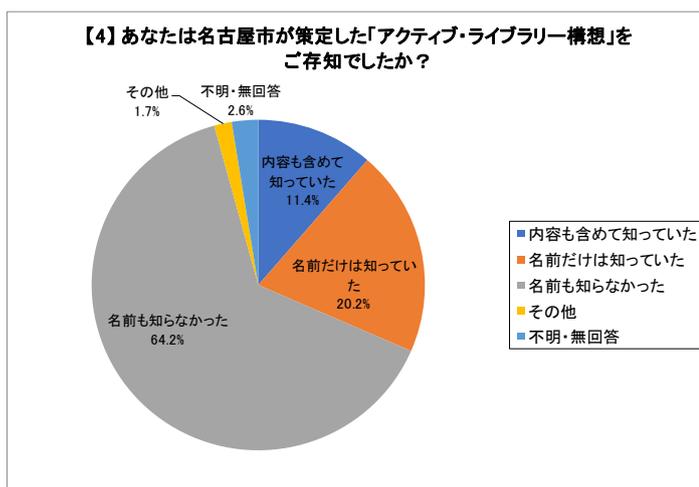
また、1割を超えたのが、「子どもの図書館利用につきそう」(16.2%)、「館内で勉強や仕事をする」(14.8%)であった。

#### (4) 「アクティブ・ライブラリー構想」の認知度

名古屋市が「アクティブ・ライブラリー構想」を策定したのは2017年12月。この「認知度」を3段階に分けて尋ねた。

「名前も知らなかった」という回答がおよそ3分に2（64.2%）に達する。認知度は極めて低いことが分かった。

一定の認知をしている人（「内容も含めて知っていた」「名前だけは知っていた」）の割合は低く、さらに「内容も含めて知っていた」割合は低い（11.4%）。（図④）

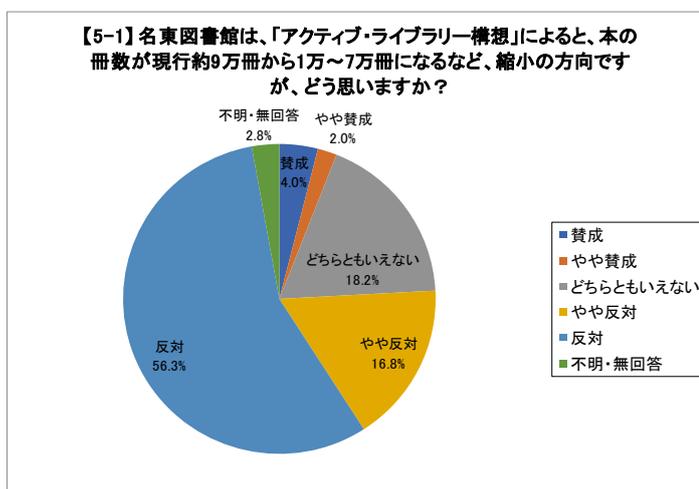


#### (5-1) 本の冊数の縮小について

「アクティブ・ライブラリー構想」によると、名東図書館は蔵書冊数を縮小（約9万冊→1万～7万冊）する方向になっている。

このことについて、4段階に分けて、賛成か反対かを尋ねた。

回答者の過半数（56.3%）が「反対」と回答、「やや反対」を合わせると7割を超え（72.6%）、圧倒的に蔵書冊子を縮小することに反対の意見が多かった。（図⑤）



図書館利用の頻度（設問1）と蔵書冊子の縮小の「是非」について調べてみたところ、利用頻度が高い人ほど、蔵書冊数を減らすことに反対していることが分かった。（図A）

	賛成		やや賛成		どちらともいえない		やや反対		反対		合計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
ほぼ毎日	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	3	75.0%	4	100.0%
週に1回以上	1	1.7%	1	1.7%	4	6.7%	13	21.7%	41	68.3%	60	100.0%
月に2、3度	3	2.9%	0	0.0%	18	17.5%	14	13.6%	68	66.0%	103	100.0%
月に1回程度	1	2.0%	1	2.0%	8	15.7%	11	21.6%	30	58.8%	51	100.0%
数カ月に1回程度	4	7.4%	2	3.7%	10	18.5%	11	20.4%	27	50.0%	54	100.0%
年に1回程度	1	3.4%	2	6.9%	8	27.6%	6	20.7%	12	41.4%	29	100.0%
利用しない	4	11.4%	1	2.9%	13	37.1%	4	11.4%	13	37.1%	35	100.0%
合計	14	4.2%	7	2.1%	62	18.5%	59	17.6%	194	57.7%	336	100.0%

#### (5-2) その理由

冊数の縮小について、その理由を尋ねたところ263人の方から意見を受けた。（別掲全文）

縮小に「賛成」「やや賛成」の人からは、冊数が減っても「効率的」な運営がなされれば問題

はないのではないかという意見が寄せられた。「図書の種類やサービスに違い、メリハリをつけることで、目的に合わせた図書館選択ができるようになる。中途半端に図書が充実しているだけではいけない」、「インターネットで予約できるので、そんなに本（蔵書）は必要ないと思う」「図書館の機能を分散させ効率化を図るという意味では良いのでは。核となる図書館が充実すると思う」など、である。

「どちらともいえない」と回答をした人からも、「図書は冊数の問題ではないと思う。効率が良ければ良いと思う」など同様な意見が多くみられた。また、インターネットを活用している人からは、「ネット予約をするので、館内冊数は気にならない」などという意見もあった。一方、「やや反対」「反対」の人からは、「現在でも自分にとって必要な本が必ずあるとは言えず（決して多くない）」のに、減らすのは問題だという意見が多かった。「もともと名東図書館には読みたい本の在庫数が少なかったり、そもそも蔵書していないことが多いのに、さらに減るなどもってのほか」など。また、中央図書館など他図書館の本を借りる方法は利用しづらいという意見もあった。例えば、子どもが利用しようとする場合、「図書館に本があることが大事」、「蔵書の数が多ければ多い程、自分や家族が読みたいと思う本に出会える機会は増えると思うので、蔵書が少ない図書館はあまり行きたくないと思います」など。

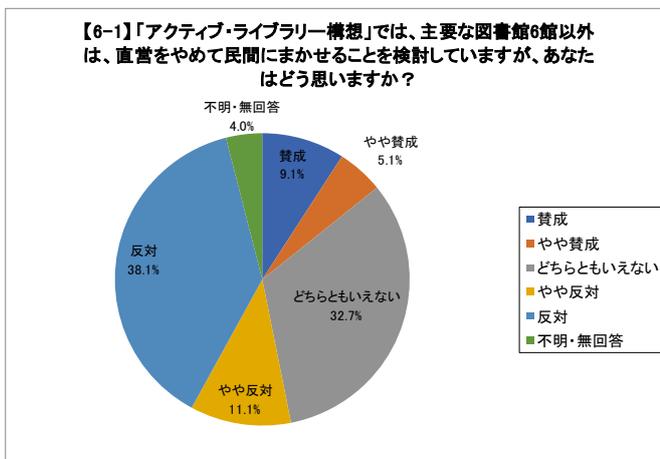
地域に図書館があることの意義について、「図書館は地域の文化活動の拠点です。充実拡大はあっても縮小はダメだと思います」という意見も複数あった。

### （6-1）図書館の「民営化」推進について

「アクティブ・ライブラリー構想」にもとづき、「民間委託」（指定管理者制度）をする図書館を増やし、直営の図書館を市内で6館に減らすことについて、5段階に分けて尋ねた。

「反対」は約4割（38.1%）、「やや反対」を合わせると約半数（49.2%）となった。

ここでは、「どちらともいえない」とする回答が3割を超えており（32.7%）、判断に迷っている人が多いことが分かる。一方、明確に「賛成」とする回答は1割未満（9.1%）だった。（図⑥）



図書館利用の頻度（設問1）の回答から月1回以上利用している人と数カ月に1回以下の人とを分けて、民営化についての「是非」について見てみた。その結果、利用している割合の高い人は、民営化に「反対」（やや反対+反対）する割合が高いことが分かった。（図B）

また、「アクティブ・ライブラリー構想」についての認知度（構想を「内容も含めて

	賛成+やや賛成		どちらともいえない		やや反対+反対		合計	
	数	%	数	%	数	%	数	%
月1回以上利用	29	13.5%	68	31.6%	118	54.9%	215	100.0%
それ以下の頻度	21	18.1%	46	39.7%	49	42.2%	116	100.0%
合計	32	9.7%	114	34.4%	167	50.5%	331	100.0%

(図C) ライブラリー構想の認知度と民営化の是非

	賛成		やや賛成		どちらともいえない		やや反対		反対		合計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
知っている	5	12.5%	2	5.0%	3	7.5%	2	5.0%	28	70.0%	40	100.0%
名前だけ	5	7.1%	0	0.0%	23	32.9%	9	12.9%	33	47.1%	70	100.0%
名前も知らない	20	9.2%	16	7.4%	85	39.2%	26	12.0%	70	32.3%	217	100.0%
合計	30	9.2%	18	5.5%	111	33.9%	37	11.3%	131	40.1%	327	100.0%

知っていた」「名前だけは知っていた」)が  
高い人ほど民営化に  
「反対」していること  
が分かった。同時にこれらの人においては民  
営化について「どちら

ともいえない」割合が少ない。このことは、内容を知ることによって民営化に反対する人が増える傾向を示唆している。(図C)

## (6-2) その理由

民営化の是非について、その理由を尋ね、258人の方から意見を受けた。(別掲全文)

賛否の回答別の内訳は、「賛成」25人、「やや賛成」16人、「どちらともいえない」83人、「やや反対」33人、「反対」99人、「賛否不記入」2人と、反対意見の記載が多かった。

「賛成」「やや賛成」の意見では、民間経営の方が効率化、サービス向上に繋がるのではないかと、という期待が多い。「民間に移行して『ムダ』を無くすのは良い」など。人件費の削減では、「公務員を減らして高齢者等の採用等を考えても良いと思います」という趣旨の回答が複数あった。

「どちらともいえない」とする回答の方は、「メリット・デメリットがはっきり分からないので判断できない」とする意見が多かった。また、図書館が無くなるくらいなら民間経営でも良いという意見もみられた。一方、経営形態を問わず、サービスが向上するならどちらでも良いとする意見も見られる。

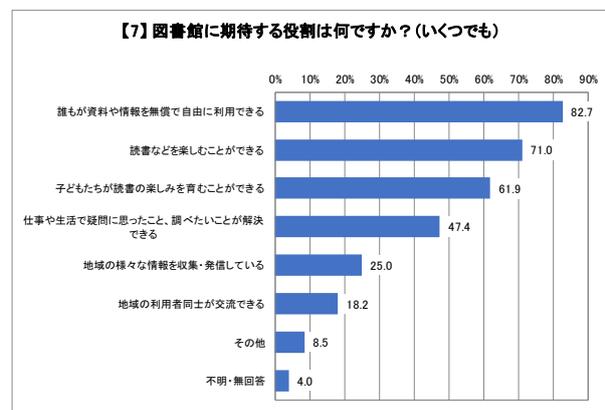
「反対」「やや反対」という意見では、そもそも図書館の運営は「非営利」であるべきだという意見が多かった。「民間ではどうしても利益優先になる。図書館には指定管理はあわない」「文化、社会福祉、教育に民間委託は駄目。なぜなら民間企業は『利益』を出す事が目的である為」など。また、内容として司書が配置されなくなるのではないかとという意見も複数みられた。ツタヤが関わる「CCCのイメージが悪すぎた。図書館には司書は欲しい」など。

また、指定管理者制度について、「住民サービスの低下、図書館労働者の労働条件の低下につながるので反対」とする意見もあった。

## (7) 図書館に期待する役割

図書館に期待する役割を6項目(「その他」を除く)に分けて尋ねた。(複数回答可)

5割を超えたのは、「誰もが資料や情報無償で自由に利用できる」(82.7%)、「読書などを楽しむことができる」(71.0%)、「子どもたちが読書の楽しみを育むことができる」(61.9%)であった。次いで、「仕事や生活で疑問に思ったこと、調べたいことが解決できる」(47.4%)と約半数。「地域の



様々な情報を収集・発信している」も4人に1人が回答（25.0%）している。これらの図書館機能は、利用者にとっていずれも重要なものである。（図⑦）

#### （8）図書館への要望（自由意見）

名古屋市の図書館への要望を自由に記載していただいた。記入した人は216人になった。便宜的に、民営化の是非との関連でまとめてみた。（別掲）

利用しやすい図書館の充実を求める声が多かった。回答者の約7割が名東図書館を主に利用しているので、その存続はもちろんのこと、さらに充実を求める意見が多かった。

名古屋市外の図書館を利用したことのある人から、それとの比較で、スペース、蔵書、駐車場利用など、利用しやすさについての要望が複数みられた。回答者が比較した市外の図書館は長久手、日進、豊田。全体として規模が大きく、駐車場スペースが広く、駐車場の利用料が無料であることが指摘されている。

名東図書館については、交通の利便性、駐車場のスペースを広く、駐車場代を無料か無料時間を延長（現行30分）する要望などが複数出されている。

#### （9）名古屋市政についての要望（自由意見）

名古屋市の市政全体についての要望を自由に記載していただいた。記入した人は143人になった。全体を便宜的に、民営化の是非との関連でまとめてみた。（別掲）

市政全般にわたって幅広い要望が出された。名古屋城の木造復元にかかる市長の政治姿勢について批判的な意見が25人（約17%）から寄せられた。「お城の復元化、反対です。それだけのお金、子どもや貧困家庭に使って下さい。お金の使い方がまちがっています！」など。

また、敬老パスを評価する意見が5人から寄せられた。「名古屋市が他の都市に誇れる善政は敬老パスだと思います」「廃止、あるいは、利用料の値上げは絶対しないで下さい」など。

河村市長の姿勢に対する批判では、「人気取り施策はやめて欲しい」「品格（言葉使い）」「こだわるところが違う」などの意見が寄せられた。議員報酬については、それを減らして図書館や福祉に費用を回すよう求める意見が複数あった。少数だが、市長を評価する意見もあった。

そのほか、図書館問題はもちろん、教育、福祉、交通など多岐にわたる要望が寄せられた。また、アンケートに取り組んだ日本共産党に対して、「議員の方々、がんばってください」など、激励が複数寄せられた。

以上